

2023.9.27 第 1 1 回霊的講話 「イエス様に会った女性④」

おはようございます。来週は早くも中間テストですね。試験の準備は怎么样了？ 試験が近いからと言って焦ってはいけませんね。むしろ、冷静に客観的に自分の学習の状況を分析して、自分にはどのような勉強が必要かをよく考え、計画的に準備を進めてください。

さて、前回の霊的講話では、ルカによる福音書から、「罪深い女」と言われた女性とイエス様との出会いをお話ししました。今回はその続きですが、もう忘れかけている人もいるかもしれません。もう一度、ルカによる福音書7章36節から50節までをお読みします。新約聖書の116ページの下の段の左端からです。

「さて、あるファリサイ派の人が、一緒に食事をしてほしいと願ったので、イエスはその家に入って食事の席に着かれた。この町に一人の罪深い女がいた。イエスがファリサイ派の人の家に入って食事の席に着いておられるのを知り、香油の入った石膏の壺を持って来て、後ろからイエスの足もとに近寄り、泣きながらその足を涙でぬらし始め、自分の髪の毛でぬぐい、イエスの足に接吻して香油を塗った。イエスを招待したファリサイ派の人はこれを見て、『この人がもし預言者なら、自分に触れている女がだれで、どんな人か分かるはずだ。罪深い女なのに』と思った。そこで、イエスがその人に向かって、『シモン、あなたに言いたいことがある』と言われると、シモンは、『先生、おっしゃってください』と言った。

イエスはお話しになった。『ある金貸しから、二人の人が金を借りていた。一人は五百デナリオン、もう一人は五十デナリオンである。二人には返す金がなかったので、金貸しは両方の借金を帳消しにしてやった。二人のうち、どちらが多くその金貸しを愛するだろうか。』シモンは、『帳消しにしてもらった額の多い方だと思います』と答えた。イエスは、『そのとおりだ』と言われた。そして、女の方を振り向いて、シモンに言われた。『この人を見ないか。わたしがあなたの家に入ったとき、あなたは足を洗う水もくれなかったが、この人は涙でわたしの足をぬらし、髪の毛でぬぐってくれた。あなたはわたしに接吻の挨拶もしなかったが、この人はわたしが入って来てから、わたしの足に接吻してやまなかった。あなたは頭にオリーブ油を塗ってくれなかったが、この人は足に香油を塗ってくれた。だから、言うておく。この人が多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大きさに分かる。赦されることの少ない者は、愛することも少ない』そして、イエスは女に、『あなたの罪は赦された』と言われた。同席の人たちは、『罪まで赦すこの人は、いったい何者だろう』と考え始めた。イエスは女に、『あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい』と言われた。」

この家の主（あるじ）であるシモンは、罪深いとされる女性が自分の家に入ってきて、イエス様に触れているのが気に入らなかった様子です。しかもシモンは「このイエスは本当の

預言者ではないのではないかと疑います。聖書に出てくる「預言者」というのは、未来に起きることを予め告げる「予言者」とは異なります。聖書の「預言者」は「言葉を預かる者」と書きますが、神様から直接、言葉つまりメッセージを預かり、王様や支配者達そして民衆にそのメッセージを語るという特別の任務を神様から与えられた人のことです。どうやら、シモンは、このイエス様が本当に神様から特別の任務を与えられた預言者ならば、私・シモンのように学問を修め、正しい信仰をもつ人とは親しくしても、このような罪深い女などは忌み嫌って遠ざけるはずだと考えたようです。

そのように考えているシモンに対して、イエス様は、金貸しから五百デナリオンそして五十デナリオンを借りた二人の人のたとえを話されます。この二人は両者とも借金を返すことができなくて免除してもらおうのですが、五百デナリオン（これは今のお金では約400万円から500万円ぐらいになるでしょうか）借りた人と、五十デナリオン借りた人とでは、どちらが金貸しに対する愛、つまり感謝の気持ちが大きいでしょうか、という内容です。シモンが答えたように、もちろん、「自分は多くの借金を免除された」と考えている人の方が愛も感謝も大きいでしょう。

イエス様の言われたのは次のようなことです。この女性は、イエス様の足を涙で洗い香油を塗るなどの大きな愛を示した。それは、「自分の大きな罪は赦されている」ことを彼女が知った、その結果なのだ、と。つまり、イエス様に大きな愛を示したから罪が赦されたのではなく、罪が赦されたから大きな愛を示すことができたのです。しかしシモンは（イエス様はここではシモンの名前は出しませんでしたが）愛も感謝も何もイエス様に示すことはなかった。それは、自分も罪を赦されなければならない人間であることを知らないための結果であると。

ここで、私は二つのことを理解することが大切だと思います。

一つは、五百デナリオンとか五十デナリオンというのは、あくまで本人の自覚の問題であり、「罪深い女」の罪は五百デナリオンで、シモンの罪は五十デナリオンと言うわけではありません。もちろん、「罪深い女」と呼ばれた女性の罪は本人も自覚しやすく、他の人から見ても分かりやすいものだったでしょう。しかし、シモンの罪、つまり、自分の信仰の正しさを誇りに思い、他の人、特に貧しい人や社会で蔑まれている人々を見下していた罪というのは本人には自覚しにくく、他の人にも見えない隠された罪です。しかし、そのすべてを神様は見通し、知っておられるのです。旧約聖書の中には「人はうわべを見るが、主(神)は心を見られる」という言葉があります。この女性の罪が仮に五百デナリオンに相当するとすれば、シモンの罪も五百デナリオン、あるいはそれ以上に相当するかもしれません。聖書は、すべての人に罪があり、すべての人が罪の赦しと救いを必要としている、と言っています。

大切なことの二つ目は、この女性の涙は喜びと感謝の涙であったということです。先ほどお話ししたように、この女性がその涙でイエス様の足を洗って髪の毛でぬぐい、香油を塗ったのは、自分の罪が赦され、自分が神様に受け入れられていることを知った結果であり、その喜びと感謝の表れだったのです。彼女はこのシモンの家に来る前に、すでに自分の罪の赦しを知っていたのだと私は思います。

これは聖書が私たちに伝える大切なメッセージです。神様は、私たちが立派な行いをしたら、その見返りに（言わばご褒美に）神様の愛や罪の赦しを与えてくださるのではありません。まず神様が私たちを愛し、私たちの罪を赦してくださったからこそ、そのことを信じた私たちは神様に感謝し、神様に喜ばれる行いをしたいと思うのです。

以前にもお読みしましたが、新約聖書のヨハネの手紙一にはこのように書いてあります。「私たちが神を愛したのではなく、（まず）神が私たちを愛して、私たちの罪を償ういけにえ（犠牲、あるいはささげものです）として、御子（イエス様）をお遣わしになりました。ここに愛があります。」

最後にイエス様はこの女性に「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と言われました。とても素晴らしい言葉だなあ、と私は思います。この女性を救いへと導いたのは、彼女の行いではなく、彼女の信仰、すなわち、神様と主イエス様に対する信頼だったのです。皆さんはどのように感じ、また考えられましたか？

では、今日も最後に「主の祈り」を唱えましょう。